

周防大島町名誉町民 作詞家

## 星野哲郎さん逝去



写真提供：荒牧万佐行さん

昭和63年6月16日に名誉町民に選ばれた作詞家 星野哲郎（本名 有近哲郎・享年85）さんが11月15日にご逝去されました。

星野さんは、大正14年（1925年）9月30日、山口県大島郡森野村和佐に生まれ、開導小学校、安下庄中学校を経て、子どもの頃から憧れた高級船員を目指して、清水高等商船学校（現東京海洋大学）へ進み昭和21年卒業後、同年日魯漁業（現ニチロ）のトロール船「第6あけぼの丸」の船員となりました。2年後腎臓結核を発病し、摘出手術。以後4年間闘病生活に入り、雑誌の投稿で、募集歌に入選し、作詞家への道を開きました。創作した作品は、4000曲を超え、数々のヒット作を世に送り

出してきました。

代表作には、「思い出さん今日は」（島倉千代子）、「恋は神代の昔から」（島山みどり）、「アッコ椿は恋の花」（都はるみ）、「三百六十五歩のマーチ」（水前寺清子）、「昔の名前で出ています」（小林旭）、「風雪ながれ旅」（北島三郎）、「兄弟船」（鳥羽一郎）、「女の港」（大月みやこ）、「雪椿」（小林幸子）、「みだれ髪」（美空ひばり）等々、数え上げられないほどのヒット曲があり、日本音楽著作権協会会長、日本作詩家協会会長などを歴任。日本歌謡界に偉大なる軌跡を残し、日本の心を謳い、昭和を彩った演歌の第一人者であり、日本を代表する作詞家でした。この功績が称えられ、昭和61年に紫綬褒章、同63年に紺綬褒章、平成12年に勲三等瑞宝章を受章、同13年に第一回山口県文化特別功労賞やその他にもレコード大賞等、様々な賞を受賞されました。

また、星野哲郎記念館開館に際して、ふるさと周防大島に感謝の気持ちを含め、独自の奨学金事業を創設し、基金総額1千万円で、毎年百万円を10年間、島の子ども達と島の学校に通う子供達にテーマを決めて作文を募集し、5名の



11月14日 今年で3回目を迎える星野哲郎スカラシップ。奨学金制度創設当時、星野哲郎さんは「病弱だった身体を癒してくれたのも、作詞家としての感性を育ててくれたのも、周防大島の海と人々でした。その、ふるさとへの感謝の気持ちを、子ども達を通して表したいと思いました。」とスカラシップに対する情熱を語ってくれました。

受賞者へ返還義務なしの学資資金として、「星野哲郎スカラシップ」と称し、周防大島町の未来を担う子ども達に星野さんの深い郷土愛と共に支給されています。周防大島町が強気に推進していきます、観光交流人口百万人を目標とした「賑わいの創出」に寄与いただき、また、文化振興に多大なご尽力をいただくなど、その影響や恩恵は、計り知れません。海を愛し、故郷である周防大島町を愛し、周防大島町の人全てを愛してくださった星野哲郎さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。